

# かがやき

Hiroshima City Hospital public relations magazine

Kagayaki

編集・発行

広島市立広島市民病院  
〒730-8518 広島市中区基町7番33号  
TEL.082-221-2291 FAX.082-223-5514

HP <http://www.city-hosp.naka.hiroshima.jp/>

## 当院は 臨床研修病院です

副院長 岡本良一



研修管理担当副院長の岡本です。

10月20日に来年度の初期臨床研修医の採用者が決定しました。13名の定数に対して40名以上の応募があり、厳しい採用試験、マッチングを経て、最終的に13名の合格者が決定しました。広島県全体では210名の定数に対して168名が採用となりました。東京、大阪等の大都市に初期研修医が集中する中で当院は常に全国レベルの受験者数を保っています。また、当院には毎年200名以上の医学生が見学、実習に来てくれています。

荒木院長は常日頃から「研修医は病院の宝」と言われています。研修医、看護師をはじめとした職員を育てることは「すぐれた医療人の育成に努めます。」という病院の理念でもあります。研修医に人気があるということは症例数が多く、医療レベルも高いということを反映しているともいえるので病院としても大変光栄なことだと思います。しかし研修医に人気があるということは、裏を返せばそれだけ忙しくて大変な職場であるということにもなります。しかもこれだけ忙しい職場で日常業務をこなしながら、さらにしっかりとした教育を行うことは大変なことです。しかし研修医たちの目の輝きと、頑張る姿をみていると、我々

指導医も力をもらうことが多いです。

研修医といえば頼りないイメージをお持ちの方も多いかと思いますが。もちろん難しい手技や手術はベテラン医師に比べるとまだまだ未熟ではありますが、当院の研修医は非常に優秀で、特に初診患者に対する初期対応では、素晴らしい能力を発揮してくれていて、専門領域しか診なくなってしまったベテラン医師よりも頼りになることも多いです。また少しでも不安や疑問があると必ず上級医と相談して診療にあたっているので安心で安全です。しかも丁寧でやさしく本当に今後が楽しい研修医がそろっています。

当院には優れた専門医がたくさんいますが、将来にわたって全国レベルの医療を維持していくためには、今後も優秀な研修医を採用して立派に育てて行く必要があります。

皆様のご理解とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

### 基本理念

患者さんと協働して、心のこもった、安全で質の高い医療を行います。

#### ～基本理念実現のための3つの柱～

1. チーム医療を推進し、信頼され満足される医療を行います。
2. 地域医療機関との連携のもとに、救急医療と高度で専門的な医療を行います。
3. 健全な病院経営を行うとともに、すぐれた医療人の育成に努めます。

### 患者さんの権利に関する宣言とお願い

広島市立広島市民病院は、信頼され満足される医療を提供するため、次のような患者さんの権利を尊重します。

1. あなたには、個人として尊重される権利があります。
2. あなたには、良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3. あなたには、診療に関して十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. あなたには、自分自身の治療などについて、自分の意見を述べ、自ら決定する権利があります。
5. あなたには、当院での医療に関するプライバシーを保護される権利があります。

これらの権利を守り、より良い医療を実現するには、患者さんと医療提供者とが力を合わせて取り組む必要があります。そのため、患者さんも積極的に医療に参加・協力する責任があることをご理解のうえ、ご協力くださるようお願いいたします。



## リウマチ・ 膠原病科

こんにちは、リウマチ・膠原病科です。私たちはその名の通り、関節リウマチや膠原病（こうげんびょう）などの診断と治療を担当しております。得意分野は原因が分からない関節痛や長引く発熱の診断です。「寒い朝に手の指が紫色や真っ白になってしびれる」という症状をご存じでしょうか？「レイノー現象」は膠原病の早期にみられる症状であり、よくご相談いただいております。「目がコロコロして痛い、唾液が少なくくてクッキーを食べにくい」といった乾燥症状にも対応しております。皮膚や目・耳・鼻の病気、肺などの内臓の病気をお持ちの患者さんも専門の先生方よりご紹介いただいております。

関節リウマチは手足の関節に炎症が続くことで、身体機能障害をきたしうる病気です。「朝目覚めてから30分以上続く手足の指や手首の痛み」が特徴です。当科ではこの疾患を正確に診断し、すみやかに治療を開始できるよう心がけております。受診のたびに関節炎の状態を総合的に評価し、「寛解」（または低活動性）をターゲットに定め治療方針を提案します。肺炎などの副作用のリスクを最小限にするため予防的な管理を行っております。個々の患者さんと病気・治療の情報を共有し、前向きに治療に取り組んでいただけるよう努力しております。

膠原病は「自己免疫」の異常によって、さまざまな臓器が障害される病気です。自己免疫とは、ばい菌と戦うための「免疫」の作用がご自身のお体に向けられることを言います。全身性エリテマトーデスは皮疹、関節痛に始まり、ときに腎炎や神経症状を引き起こす代表的な膠原病です。ステロイド剤はこの病気の治療に欠かせないお薬ですが、副作用に細心の注意を払いながら管理しております。血管炎は大型から小型の血管に炎症が起きることで、全身の臓器に障害を起こしうる病気のことを言います。巨細胞性動脈炎（側頭動脈炎）は原因不明の頭痛、両肩の痛みで発症する高齢者に多い血管炎です。当院は各臓器の診療体制が充実しており、各診療科の協力のもと、これらリウマチ性疾患の管理を行うことができます。



### ※初診患者の診療について

2014-15年度に原因不明の症状のため当科を初診した患者729例の内訳を表に示します。このうち最もご相談の多かった関節痛・筋痛300例の最終的な病名を図に示します。

表 初診患者さんの症状

関節痛・筋痛	300	41%
原因不明の発熱	51	7%
眼球・口腔乾燥	38	5%
レイノー現象	30	4%
皮膚粘膜症状	23	3%
呼吸器疾患	14	2%
しびれ	13	2%
眼の症状	4	1%
検査値の異常	36	5%
リウマチ病のご相談	133	18%
その他	87	12%
合計	729	100%

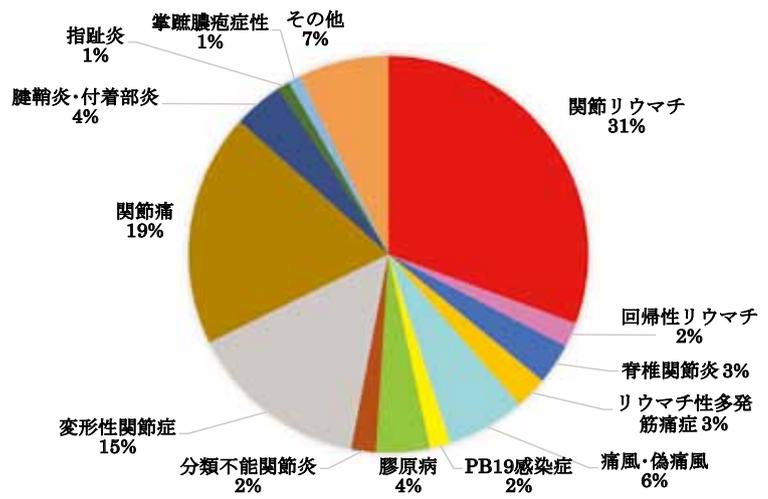


図 関節痛・筋痛で相談された患者さんの最終病名(疑いを含む)

## 内分泌・糖尿病 内科

内科の一領域として以前から内分泌疾患、糖尿病を診療していましたが、2016年4月に内分泌・糖尿病内科が新しく設けられました。

糖尿病には、1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、膵疾患・内分泌疾患・肝疾患などに伴う糖尿病、薬剤に伴う糖尿病など、様々な成因による糖尿病があり、それぞれの病態に応じた治療を行っています。糖尿病患者さんは合併症があることも多く、また、他の疾患で入院されている他科の糖尿病患者さんの血糖コントロールを依頼されることも多く、いろいろな診療科と連携して診療にあたっています。糖尿病教室（全3回）を毎週木曜日に開催しており、栄養士、理学療法士、臨床検査技師、歯科衛生士、薬剤師、看護師、医師により運営されています。入院・外来患者さんともに受講できます。教室は①～③まであり、3回受講して頂くと修了します。3週間で一巡しますので、受講できない場合は次の回に受けることができます。

内分泌疾患では、バセドウ病や慢性甲状腺炎などの甲状腺疾患が最も多い疾患です。他に下垂体・副甲状腺・副腎・膵疾患などがあり、内分泌疾患全般の診療を行っています。各種負荷試験、画像検査などにより診断し、治療しています。手術が必要な場合は該当する診療科へ紹介しています。



# アメリカ大使館訪問記

救急科主任部長の内藤博司です。平成28年10月5日に米国大使館公邸で行われたthe medical professionals supporting the Embassy communityに招待されケネディー駐日大使とお会いしてきました。誰が考えても私とケネディー駐日大使に接点は見当たらず、私自身も招待のメールが来たときは会の趣旨の説明も全く無いため、いたずらではないかと疑っていました。荒木病院長にも同様の招待があったことから、とりあえず行ってみることにしました。公邸への道すがら警視庁の検問を受けながら警官に優しく案内され米国大使館にたどり着きました。まずは参加者の方々の素性と会の趣旨を“問診”することから始めました。調査の結果、この会は日頃から大使館に関連のある医療機関が一堂に会する親睦会的なもので、平成28年4月G7広島外相会合の際、ジョン・ケリー米国国務長官に対して、また5月のオバマ大統領広島訪問の際にも、広島市民病院が医療警護を担った

ことに対して招待されたことが分かりました。会はケネディー駐日大使の挨拶で始まり、一人ずつ大使とお話しし、握手と写真撮影を行った後、立食パーティーという流れでした。大使は写真撮影後自室に帰られ、日本的な締めもなく三々五々お開きになりました。

外相会合 オバマ大統領訪問の前には、米国大使

館やホワイトハウスから医務官やシークレットサービスの方々が多数来院され、救急部門のみならず病院全体の機能を米国の基準に沿って評価され、認定を受けました。今回のケネディー駐日大使からの招待という名誉は 実は広島市民病院職員全体が今まで培ってきた実績に対



して与えられたものです。オバマ大統領広島訪問により今後ますます要人の広島訪問が増加すると予想され、広島市民病院への期待が増すことが予想されます。今後とも我々職員はその期待に沿えるよう体制整備を行っていく必要があります。

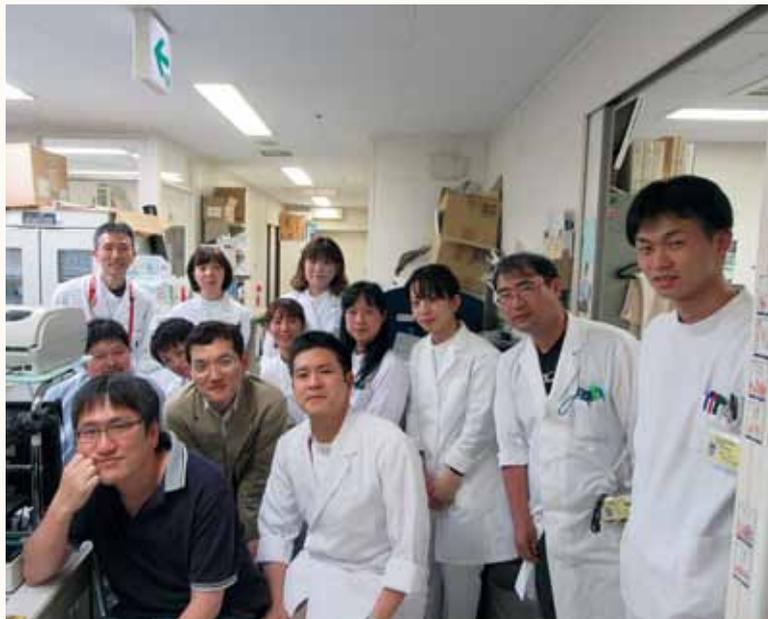


# 病理診断科って？ 病理って？

病理ってなに？とよく聞かれます。「大変ですね。病院の皆様のごはんを作っているのですね？」と言われたこともあります。残念です。りょーり（料理）ではありません。びょうり（病理）です。

でもテレビの影響力はすさまじく、「観ましたよ、フラジャイルの長瀬智也さんですね。カッコイイですね。そういえば、サトラレの鶴田真由さんも病理医でしたね」と言ってくれる方もいらっしゃいます。残念です。あのような美男美女はいません。

病理とは、読んで字のごとく、病（やまい）の理（ことわり）を追求する診断部門、ひいては学問のことです。歴史的には、すべての近代医学における研究は病理から分かれてできたということも真実です。ですが現代では、病理もまた多様な診断、研究の一部門に過ぎません。説明が難しいですね。



昔、中学生のとき、ある事情があって大病院のなかで迷子になったことがあります。その時、声をかけてくれた方が病理医でした。道案内をしながら、彼はいろいろな話をしてくれました。

「病院とは、そこにあるあらゆる物を使い尽くさないようでは受診に来た甲斐がありません。」

「（甲斐って……）あ、質問してもよろしいでしょうか？」

「無論です。〈使い尽くす〉ものの中には病理スタッフも含まれます。」

「具体的に、何をやっているのですか？」

「病気で異常になった部分を一部取り出して、そこを顕微鏡でさらに詳しく見て、どんな変化があるのか、原因はなにかなどを理詰めで読み解いて診断を付けていくのです。」

「なぜ顕微鏡なのですか？」

「19世紀後半にVirchow ウィルヒョウがその基礎を確立した学問だからです。そこでは全ての細胞は細胞から生じ、細胞が生命の基本単位としています。病気も細胞単位で起きるのであれば、細胞とその構築が最も効果的に観察できるのは、顕微鏡下だからです。」

「一日中顕微鏡を見ているのですか？」

「いいえ、異常になった部分を適切に標本にするために肉眼的観察の元に適切な部分を“切り出し”たり、依頼されて病理解剖したりします。」

「細胞をみたらすべてが判るのですか？」

「もちろん、すべては判りません。細胞の形、細胞の構築だけでは判らないことも沢山あります。ただし、急激な進化を遂げた領域であり、病理で得られる材料から機能的、又はより細かい単位である遺伝子検索など多様な情報が引き出され、それが治療に反映される時代になってきています。」

「表には出ないのですか？」

「そうですね。患者さんと直接会い、診察し治療する臨床医ではありません。私たちが病める人の目の前に立ち、言葉を交わすことはないかもしれません。しかしたとえば臨床医が、“生検（＝患部の一部を切り取った組織や細胞などを、顕微鏡などで調べる検査のこと）しましょう”、“手術の後病理診断が出てから検討しましょう”、“大変申し訳ありませんが病因検索の為に解剖させていただきます”、といった時、言葉の後ろには、私たち病理のスタッフがいてと思っています。説明のなかに、私たちの診断があるはず。判断に、納得に、決断に、疑問の解決に、是非使い尽くしてください。」

文・主任部長 市村 浩一。写真はいつも楽しい病理診断科のスタッフ一同です。

## 外来診療のご案内



### 診療受付時間

午前8時30分～午前11時00分  
※眼科／火・木曜日  
午前10時00分まで  
診療科によっては休診日がありますので  
事前にご確認ください。

### 休診日

土曜日・日曜日・祝祭日・8月6日  
年末年始（12月29日～1月3日）

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか医科5,400円、歯科3,240円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。